



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月14日

上場会社名 JNSホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3627 URL <https://www.jns.inc/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 昌史
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役経営管理部長 (氏名) 中野 隆司 TEL (03) 6838-8800
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	6,736	10.9	292	84.3	189	37.3	625	320.8
2021年2月期第3四半期	6,074	△15.1	158	△52.7	137	△60.9	148	△30.9

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 437百万円 (241.5%) 2021年2月期第3四半期 128百万円 (△35.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	52.20	49.83
2021年2月期第3四半期	12.77	12.15

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第3四半期	8,938	5,591	62.2	466.18
2021年2月期	6,876	5,232	75.6	440.85

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 5,556百万円 2021年2月期 5,199百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2022年2月期	—	0.00	—		
2022年2月期（予想）				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	9,500	11.8	450	88.0

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

現在、モバイル、インターネット業界は、非常に速いスピードで構造変化が進行しつつあり、短期的な業績動向については変動要素が多いため、当社では、年間ベースでの業績管理に重点を置いた経営管理を強化しています。これらを踏まえ、現在、当社のグループの業績予想については、連結業績に関する年間業績の開示のみとしております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	12,130,300株	2021年2月期	11,793,800株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	210,105株	2021年2月期	105株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	11,979,358株	2021年2月期3Q	11,641,344株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
経営成績に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（自2021年3月1日至2021年11月30日）における日本経済は、7月～9月の実質GDP成長率が前期比0.9%減、年率換算3.6%減となったものの、9月30日には「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」等が全面的に解除となり、個人消費を中心に景気回復の方向に動き出しているものとみられます。

また、デジタルトランスフォーメーション（DX）の流れは、「Withコロナ」が促進する形となり、公共サービスから企業活動、教育、医療、健康、エンターテインメントなど、あらゆる領域で着実に進行しつつあります。

当社グループにおいては、これらがフォローの風となり、2022年2月期は、Nintendo Switchソフトや教育コンテンツ、ヘルスケアサービス等のX-Techサービス事業は好調に推移してきましたが、反面、コロナ禍によって生じたインバウンド需要の激減や半導体等部材調達環境の悪化に伴い、DXソリューション事業においてはデバイス事業の不採算化が続いてきました。しかしながら、当第3四半期には各種IoTデバイス、法人向けICT製品へのシフトによる受注確保や設計変更を伴う代替部品への置き換え、部品の先行調達などのリカバリー施策を展開してきたことが実を結び、業績が大きく復調、DXソリューション事業のセグメント利益は当累計期間で黒字に転換しました。

第3四半期のX-Techサービス事業については、2021年7月に発売し爆発的なヒットとなったNintendo Switchソフト『クレヨンしんちゃん「オラと博士の夏休み」』が、夏商戦を終え出荷ペースは鈍化しましたが、DX化の流れを受けて教育コンテンツプロデュース事業や健康増進サービス等のコンテンツ系Techサービス、コミュニケーション管理・キャッシュレス決済などのビジネス系Techサービスともに順調に推移しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は6,736,584千円（前年同期比10.9%増）、営業利益は292,354千円（前年同期比84.3%増）、経常利益は、189,152千円（前年同期比37.3%増）、純利益については第2四半期に株式会社バリューデザインの株式の一部売却に伴う特別利益等があり625,369千円（前年同期比320.8%増）となりました。

なお、12月22日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通り、第3四半期におけるデバイスソリューション事業の復調状況を鑑み、今年度の売上予想を95億円と上方修正しております。

セグメント別の事業動向については以下の通りです。

<DXソリューション事業>

当第3四半期連結累計期間におけるDXソリューション事業の売上高は4,107,598千円（前年同期比14.8%減）、セグメント利益は25,651千円（前年同期比92.7%減）となりました。

昨年度来損失を計上していたデバイスソリューション事業については、長期化するコロナ禍により激減したインバウンド製品中心の事業構造を見直し、各種IoTデバイス、法人向けICT製品などの新規案件獲得に向け積極的な受注活動を展開したことや、世界的な半導体等の部材の需給逼迫や価格高騰に対しては、代替部品への変更対応や設計見直し、また深圳のサプライチェーンの活用、長期部品の先行調達など、リカバリー施策を展開してきたことが実を結び、当期において復調を果たし大幅な黒字化を達成しました。サービスソリューション事業においては、コロナ禍で停滞していた既存クライアントからの受注が回復傾向にあり、DX関連の新規案件の受注も堅調に推移しました。これらの結果、第3四半期においてDXソリューション事業全体でセグメント損益114,741千円という大幅な増益を達成し、当累計期間において黒字に転換いたしました。

<X-Techサービス事業>

当第3四半期連結累計期間におけるX-Techサービス事業の売上高は2,628,986千円（前年同期比109.7%増）、セグメント利益は491,479千円（前年同期はセグメント損失10,185千円）となりました。

コンテンツ系Techサービスにおいては、教育系出版社との協業による教育コンテンツプロデュース事業や自治体、法人向けウォーキングイベントサービス「RenoBody」が順調に拡大しました。ビジネス系Techサービスにおいては、「Withコロナ」で促進されつつあるDX化の流れを背景に、法人向けの業務効率化を目的とした「OfficeBOT」やコミュニケーション管理サービス「SMARTアドレス帳」が好調に推移しました。また、電子マネーアプリにおいては、株式会社バリューデザイン、アララ株式会社と協力して、ハウス型プリペイド市場拡大に向けた取り組みを強化しています。Nintendo Switch事業については、2021年7月に発売して爆発的なヒットとなった『クレヨンしんちゃん「オラと博士の夏休み」』は夏の商戦期が終わり、現在、来年度リリース予定の海外向け完全ローカライズ版の開発に注力しています。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,050,141	4,819,636
受取手形及び売掛金	1,038,573	1,095,878
商品	25,822	137,997
仕掛品	35,636	171,977
原材料	217,487	185,261
前渡金	192,648	692,676
その他	439,755	349,847
貸倒引当金	△4,904	△4,692
流動資産合計	3,995,160	7,448,582
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	133,856	145,322
車両運搬具(純額)	4,386	3,921
器具備品(純額)	64,677	94,126
建設仮勘定	1,544	1,433
有形固定資産合計	204,464	244,804
無形固定資産		
ソフトウェア	178,014	191,482
ソフトウェア仮勘定	256,078	58,962
のれん	72,289	46,265
その他	4,719	6,848
無形固定資産合計	511,102	303,558
投資その他の資産		
投資有価証券	77,924	606,618
関係会社株式	1,702,948	—
関係会社出資金	1,212	1,823
繰延税金資産	151,696	141,829
差入保証金	238,870	197,216
その他	30,073	31,559
貸倒引当金	△37,131	△37,131
投資その他の資産合計	2,165,595	941,915
固定資産合計	2,881,162	1,490,278
資産合計	6,876,322	8,938,860

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	350,252	414,595
短期借入金	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	149,742	426,024
未払法人税等	48,142	226,373
前受金	127,297	348,864
賞与引当金	204,846	216,346
製品保証引当金	427	427
その他	376,396	364,827
流動負債合計	1,457,104	1,997,457
固定負債		
長期借入金	130,854	1,289,380
繰延税金負債	14,813	27,944
資産除去債務	33,445	24,900
その他	7,329	8,119
固定負債合計	186,443	1,350,343
負債合計	1,643,547	3,347,801
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,378,899	2,391,021
資本剰余金	1,487,890	1,500,011
利益剰余金	1,287,666	1,922,778
自己株式	△76	△115,366
株主資本合計	5,154,380	5,698,445
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,486	△187,971
繰延ヘッジ損益	2,377	△4,090
為替換算調整勘定	1,061	50,514
その他の包括利益累計額合計	44,925	△141,548
新株予約権	33,469	34,162
純資産合計	5,232,775	5,591,059
負債純資産合計	6,876,322	8,938,860

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	6,074,414	6,736,584
売上原価	4,275,473	4,229,992
売上総利益	1,798,940	2,506,592
販売費及び一般管理費	1,640,323	2,214,237
営業利益	158,617	292,354
営業外収益		
受取利息	1,827	664
為替差益	—	19,182
補助金収入	35,742	—
その他	6,097	4,717
営業外収益合計	43,666	24,564
営業外費用		
支払利息	9,337	9,247
為替差損	34,988	—
持分法による投資損失	17,066	107,031
その他	3,130	11,488
営業外費用合計	64,522	127,766
経常利益	137,761	189,152
特別利益		
関係会社株式売却益	—	651,005
持分変動利益	9,924	2,796
新株予約権戻入益	2,367	—
特別利益合計	12,292	653,801
特別損失		
減損損失	—	27,671
事務所移転費用	—	9,185
特別損失合計	—	36,857
税金等調整前四半期純利益	150,053	806,096
法人税等	1,351	180,727
四半期純利益	148,701	625,369
非支配株主に帰属する四半期純利益	78	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	148,623	625,369

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	148,701	625,369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,394	△229,458
繰延ヘッジ損益	111	△6,468
為替換算調整勘定	△3,038	48,669
持分法適用会社に対する持分相当額	△134	△158
その他の包括利益合計	△20,455	△187,415
四半期包括利益	128,246	437,953
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	128,167	437,953
非支配株主に係る四半期包括利益	78	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年10月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式210,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が115,290千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が115,366千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	DXソリューション 事業	X-Techサービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	4,820,945	1,253,469	6,074,414	—	6,074,414
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	62,313	—	62,313	△62,313	—
計	4,883,258	1,253,469	6,136,727	△62,313	6,074,414
セグメント利益	351,174	△10,185	340,989	△182,372	158,617

(注) 1. セグメント利益の調整額△182,372千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△155,817千円、のれんの償却額△26,024千円等が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	DXソリューション 事業	X-Techサービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	4,107,598	2,628,986	6,736,584	—	6,736,584
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	107,239	1,350	108,589	△108,589	—
計	4,214,837	2,630,336	6,845,174	△108,589	6,736,584
セグメント利益	25,651	491,479	517,131	△224,776	292,354

(注) 1. セグメント利益の調整額△224,776千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△197,636千円、のれんの償却額△26,024千円等が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に「DXソリューション事業」セグメントにおいて、27,671千円の減損損失を計上しております。